次期長期計画策定へ議論活発化

水産基盤整備 座談会

水産基盤整備は平成29年度予算概算要求が公表され、現在は来年3月に開議決定を予定する次期漁港漁場整備長期計画の策定を進めるなど業界にとっても節目の時期を迎えている。輸出促進に必要な漁港の高度衛生化、資源回復を図るうえで目たいの漁場整備、漁村の活性化につながる漁港ストックの有効利用―など重要な政策も多く掲げられた。恒例の水産基盤整備座談会で水産庁や団体、メーカーなど有識者に議論してもらった。（敬称略）

影山理事長

長野会長

橋本会長

木實谷社長

宇賀神理事長

橋本 直轄漁港の話やいろいろ、気を配っていただき中小漁港の活性化や新規の漁港ストックの有効利用―など重要な政策も多く掲げられた。恒例の水産基盤整備座談会で水産庁や団体、メーカーなど有識者に議論してもらった。（敬称略）

長野 補正予算で防災・減災対策を大きく組んでいるが、ブロックトップコンクリート製護岸工法による「腹付け工」など新たな技術を取り入れてほしいと思っていた。標準的な法掛かりがないことが問題。運用指針で見直されるものと思う。

92年度予算については、漁港ストック効果の最大化はないようだが、防災については力をいただいた。

もう二つ、市町村合併により職員の数が減っている。職員が足りない。ネジメントをするだけで技術は外部に委託するというのが現状になっている。これでは大きな事業に対応できない。市町村の業務支援に対するものも併せて補助制度に組み込みなおしたらどうか。

石巻漁港の復旧・復興で初めて導入したようなCM（コンストラクション・マネジメント）がますます必要になる。

影山 市場システムでは、もいいのではないかと思う。入札の電子化なども考え石巻漁港の復旧・復興で初めて導入したようなCM（コンストラクション・マネジメント）が引き続き必要になる。

橋本 市場での製氷、冷凍・冷蔵施設を切り離さないと考えるとは重要だ。主体の見地から、災害時の対策、周辺からの搬入や駐車場の確保が多いと思う。一番と衛生管理をどうするかが今後の課題になる。

現在の漁港ストックの有効利用は、北はナマコ、西はイセエビが中心になるのだろうか。単価が高く地元でのうま味もお金が落ちるのが、漁獲に直結性が強い。魚類で捉え方がなく、ぜひ考えてもらいたい。

谷川 補正、来年度予算はなかなかがんばっていただいて、主体の見地から、災害時の対策、周辺からの搬入や駐車場の確保が多いと思う。一番と衛生管理をどうするかが今後の課題になる。

現在の漁港ストックの有効利用は、北はナマコ、西はイセエビが中心になるのだろうか。単価が高く地元でのうま味もお金が落ちるのが、漁獲に直結性が強い。魚類で捉え方がなく、ぜひ考えてもらいたい。

谷川 補正、来年度予算はなかなかがんばっていただいて、主体の見地から、災害時の対策、周辺からの搬入や駐車場の確保が多いと思う。一番と衛生管理をどうするかが今後の課題になる。

高吉 水産全体の予算は2600億円の要求だ。非公共は約1200億円、公共は8300億円の要求になっている。これからしっかりと確保できるようにしたい。これ以外に震災復興対策がある。

水産基盤整備事業の要求ポイントは元々4点、補正予算と重なる部分もあるが、①漁港・輸出拠点漁港の衛生管理対策②漁港漁場整備③防災・減災対策④漁港機能強化の長寿命化を含めた対策である。

東日本大震災の復旧・復興は大きな負担だ。

影山 市場システムでは、もいいのではないかと思う。入札の電子化なども考え石巻漁港の復旧・復興で初めて導入したようなCM（コンストラクション・マネジメント）が引き続き必要になる。

橋本 市場システムでは、発注者サイドの人手が不足している。防潮堤の用地買収なども膨大な手が必要だ。現状的に市町村だけでは難しい。水産庁の方でも考えていただきたい。

高吉 漁港内での増養殖では一定水域が必要との指摘があり、これは生産性とは直接水域でできる一方でビン物を飼おうとするスペースが必要になる。大規模な水面が必要なら防波堤の背後に利用を考えるなど計画をつくればよいと思う。今後も勉強していきたい。

東日本大震災の復旧事業では、発注者サイドの人手が不足している。防潮堤の用地買収なども膨大な手が必要だ。現状的に市町村だけでは難しい。水産庁の方でも考えていただきたい。

高吉 漁港内での増養殖では一定水域が必要との指摘があり、これは生産性とは直接水域でできる一方でビン物を飼おうとするスペースが必要になる。大規模な水面が必要なら防波堤の背後に利用を考えるなど計画をつくればよいと思う。今後も勉強していきたい。

橋本 直轄漁港の話やいろいろ、気を配っていただき中小漁港の活性化や新規の漁港ストックの有効利用―など重要な政策も多く掲げられた。恒例の水産基盤整備座談会で水産庁や団体、メーカーなど有識者に議論してもらった。（敬称略）

長野 補正予算で防災・減災対策を大きく組んでいるが、ブロックトップコンクリート製護岸工法による「腹付け工」など新たな技術を取り入れてほしいと思っていた。標準的な法掛かりがないことが問題。運用指針で見直されるものと思う。

92年度予算については、漁港ストック効果の最大化はないようだが、防災については力をいただいた。

もう二つ、市町村合併により職員の数が減っている。職員が足りない。ネジメントをするだけで技術は外部に委託するというのが現状になっている。これでは大きな事業に対応できない。市町村の業務支援に対するものも併せて補助制度に組み込みなおしたらどうか。

石巻漁港の復旧・復興で初めて導入したようなCM（コンストラクション・マネジメント）がますます必要になる。

影山 市場システムでは、もいいのではないかと思う。入札の電子化なども考え石巻漁港の復旧・復興で初めて導入したようなCM（コンストラクション・マネジメント）が引き続き必要になる。

橋本 市場システムでは、発注者サイドの人手が不足している。防潮堤の用地買収なども膨大な手が必要だ。現状的に市町村だけでは難しい。水産庁の方でも考えていただきたい。

高吉 漁港内での増養殖では一定水域が必要との指摘があり、これは生産性とは直接水域でできる一方でビン物を飼おうとするスペースが必要になる。大規模な水面が必要なら防波堤の背後に利用を考えるなど計画をつくればよいと思う。今後も勉強していきたい。

宇賀神 フロンティア事業については、特に周辺諸国が二百海域へすさまじい勢いで迫っており、国と地方自治体が一体的に連携しなければ、